

当院における半固形化栄養材の使用状況

～経鼻胃管症例の紹介～

1) 菰野厚生病院薬剤部 2) 菰野厚生病院栄養科
○川瀬将紀¹⁾、谷口靖樹¹⁾、山口恵¹⁾、中原さおり²⁾

【背景】

従来半固形化栄養材の胃ろうからの投与例は多数経験しているが、経鼻胃管からの投与経験がない。そこで我々は経鼻胃管からの半固形化栄養材投与の可否、および同剤と水を混合した場合の粘度変化を検討し、

14Fr以上のNGチューブであれば経鼻胃管例においても半固形化栄養材が使用可能であること、半固形化栄養材は水と混合すると容易に液状化するため、水分の補給はトロミ茶で統一したことを日本静脈経腸栄養学会東海支部学術集会にて報告した。

【目的】

前回は既製品の半固形化栄養材で検討を行ったが、より多くの病態への対応を可能とするため液体栄養材にトロミ材を加えてトロミをつけて流速を検討した。

【対象】

液体栄養材エンシュアリキッド®、レナウェルA®および対象としてお茶にトロミ材（スルーキングアイ®）を使用しトロミをつけた。トロミ材濃度はエンシュアリキッド 3.2% レナウェルA 1.6%お茶 2.4%とした

【方法】

53度の傾斜に栄養材 4mLを滴下し25cm移動する時間を測定した。比較対象として水および液体栄養材(1.6kcal/mL)を用いた

【結果】

エンシュアリキッド（トロミ付き）は流速0.93cm/秒、レナウェルA（トロミ付き）は1分間では流れ落ちず計測不可であった。いずれのトロミ付き栄養材もトロミ茶（流速5.7cm/秒）以下の流速であり、半固形化栄養材として使用が可能と考えられる。

【経鼻胃管症例】

- ・糖尿病を合併した胃切除症例に対する半固形化栄養材の使用
残胃半分以下のため、胃ろう造設不可能であり経鼻経管栄養が実施され、主治医と協議し半固形化栄養材を使用した。
- ・重度褥瘡を伴う腎機能低下症例への半固形化栄養材の使用
腎不全用液体栄養材にトロミをつけて投与することで拘束時間の短縮可能となり、褥瘡の改善につながった。

【考察】

以前から半固形化栄養投与に取り組んできたが、トロミ付き液体栄養材を使用することでより多くの症例に対して半固形化栄養法が実施できる。特に拘束時間の短縮が必要な症例では半固形化栄養法は有用であると考えられる。